学校教育目標　『自ら学ぶ子　心豊かな子　たくましい子』

あずっ子

入間市立東町小学校学校だより
6月　1日発行
発行者　　校長　野口正孝

こどもも　おとなも　元気いっぱい　東町小！

在籍児童数472名(6／1現在)

反省を生かす

先日の保護者面談では、大変お世話になりました。保護者の皆様と担任が児童の情報交換をすることで、今後の指導にそれを生かせると思います。職員からも「面談をしてよかった」という声が多く上がっています。今後も学校と保護者と連絡を密にして児童の指導に当たれたらよいと思っています。

さて、話は変わりますが、私は元旦に「毎日本を読む」という目標を立てました。数ページでもいいので、毎日本を読むことを心がけています・・・が、「なかなか時間が取れない」を言い訳にしてさぼりがちになってしまいます。そこで、毎日1話ずつ読める「365人の仕事の教科書」という本を購入しました。これなら毎日1ページずつ必ず読めるので、何とか目標が達成できそうです。その本の中でなるほどと思った話がありましたのでご紹介します。

幸田露伴（大正～昭和初期の小説家）は人生における「運」を大切に考えていました。しかしそれは、他に依存した運ではなく、その逆でした。露伴は「大きな成功を遂げた人は、失敗を人のせいにするのではなく、自分のせいにする傾向が強い」と言います。失敗や不運の因を自分に引き寄せて捉える人は辛い思いをするし、苦しみもする。しかし、同時に「ああではなくこうすればよかった」という反省の思慮を持つことになる。それが進歩であり、前進であり、向上であると言っています。そして幸運不運はきまぐれや偶然のものではなく、自分の在り方で引き寄せるものであると締めくくられています。なるほど、失敗の原因を人の責任、周りの責任にすれば自分は楽になります。しかし、そこには反省がなく、「反省なくして進歩なし（松下幸之助の言葉）」です。これは組織では当たり前のことなのですが、なかなか自分事としてとらえるのは難しいかもしれません。

「反省を生かす」を学校の学びに例えるとどうでしょうか。入間市教育長の中田一平先生は、校長会の中で次のような話をしています。

「小学生は成功体験重視の学びを。しかし、学年が上がるに連れて失敗活用重視の学習に変化することが必要である」。

失敗活用重視の学習とは、失敗を振り返り、その反省点を次の経験に生かしていく学習です。この学びをするためには、まず自己肯定感が必要です。自己肯定感があって初めて失敗を受け入れられるのです。ですから、私は小学校では、まず成功体験を積んでいくことが大切だと考えています。「やればできる」「自分はうまくできる」という気持ちがあって、初めて失敗を受け入れ、反省することができます。本校の重点目標に「大人が努力を見届け、評価する」をあげていますが、これも自己肯定感を高めるための手立てです。ぜひご家庭でもできたこと、頑張ったことをほめてあげてください。また、実は子どもは大人が褒めるよりも友達に褒められるほうが嬉しいものです。友達に褒められたり、認められたりする経験はとても大切です。そのために、学びあいの学習も大切です。本校ではどの教科でもできるだけ話し合い活動を取り入れる方針を出しています。先日、あるクラスの算数の授業で話し合い学習をしていた時のことです。算数の問題の解き方を教えあっているときに、ある子の考えに対して、周りの子が「それって、すごいね」と言っていました。発表した子はとても嬉しそうでした。こうした経験が自己肯定感につながっていくと思います。こうして自己肯定感が高まって、初めて「失敗から学ぶ」ことができます。失敗しても「やればできる」という経験を積んでいるので「どうせできない」「やっても無駄」という気持ちにはならないのです。中田教育長はこの失敗活用重視の学びを高学年、できれば中学年から取り入れてほしいとしています。私はそこに取り組むにはまず、成功体験をしっかりつませることが大切だと思っています。今後もこうした学びを通して、失敗から学び、反省を生かす児童の育成をめざします。今後も本校へのご協力とご支援をお願いいたします。